令和６年度　「みそのもくもく」学生の振り返り
（学びのねらいとしている保護者との関わりについて抜粋しました）

【5 月～6 月】
〇M ちゃんがピンをさすゲームで遊んでいるのを隣で見守りながら声かけをしていると、M ちゃんのお母さんが「前回来たときは最後のほうしかこの遊びをしてなかったけど、今回は熱中して遊んでいるんですよ」と教えていただいた。私は「そうだったんですね。M ちゃんよかったね、楽しいね」と声かけをしたが、もくもくの回数を重ねていくにつれ、「M ちゃんはこんなことをしてました。できるようになったんですね」と話を広げていけると思った。

【7 月～9 月】
〇絵本の読み聞かせをする前に、保護者の方から「このおもちゃはどうやって遊ぶのですか」と声をかけられた。そのおもちゃは私ももくもくの部屋で実際に触って遊んだことがあったおもちゃだったので、すぐに遊び方を伝えることができた。子どもや保護者が安心して遊ぶためには、まず自分たちがそのおもちゃや素材のことをよく知っておくことが重要だと思った。まだもくもくのおもちゃの良さは他にもたくさんあると思うので、いつ聞かれても良いようにたくさん自分も体験して遊びの良さを見つけていきたい。

〇木のグライダーを外で飛ばしているとき、ある女の子がすごく楽しそうに何回も何回も飛ばしている姿が見られた。私は「飛ばすの上手だね、いっぱい遠くまで飛んだね」と声を掛けると、「うん！外遊び好きなんだ」と笑顔で答えてくれた。すると保護者の方が「この子は保育園でも外で遊んでいて男の子たちと走ってばかりなのよ」と教えてくれた。私は「すごく飛ばすのが上手で体を動かすことが本当に好きなんですね」ととっさに答えた。もくもく当初の自分だったら「そうなんですね」としかきっと言えていなかったなと思い、自分の成長を少し感じることが出来た。

【10 月～12 月】
〇読み聞かせの際、子どもたちの様子を見守っているとき、今日もくもくが初めての女の子が「絵本見えない･･･」と言って少し悲しそうな表情をしていた。私は「こっちのほうが見やすいよ」と誘ってみたが、お母さんと一緒じゃないと嫌な様子だった。絵本も終わり、最後の『にじ』が終わり、あいさつが終わったとき、とうとうその女の子は泣き出してしまった。私はとっさに今日読んでいた絵本を手に取り、その女の子に渡した。そして保護者の方に読み聞かせをしてもらい、女の子は少し不安な様子が消えたように思えた。今日自分がこのような行動が出来たのは、その子どもの様子をしっかり見ていたからであると思った。

【1 月～3 月】

〇子どもたちと段ボールで遊び、一緒に片付けをしていたときに、段ボールに飛び乗って壊す姿がとても楽しそうで、片付けもやり方を変えるだけで楽しい遊びになることに改めて気づいた。男の子 2 人が段ボールに潜り、見つけてもらうというゲームを考え、お母さんと一緒に楽しんでいる姿がとても可愛らしく、段ボール一つでも様々な遊びに発展して、充実した時間を過ごすことが出来た。